

日本医療政策機構のNCDに関する取り組み ～NCD Alliance Japan Project～

Nov 18, 2012

日本医療政策機構 窪田和巳

kazumi_kubota@hgpi.org

Our Mission

フェアで健やかな社会を実現するために、新しいアイデアや価値観を提供し、グローバルな視点で社会にインパクトを与え、変革を促す原動力となること。

我々は、将来を見据えた幅広い観点から、政策に関心を持つ市民に選択肢を提示し、多分野のステークホルダーを結集し、創造性に富み実現可能な解決策を示す。

Guiding Principles

CONNECT and FACILITATE

幅広いステークホルダーを結集し、有意義な議論を促進する。

INDEPENDENT and GLOBAL

特定の政党・団体の立場にとらわれず、独立性を堅持し、グローバルな視点を持つ。

FEASIBLE and RESPONSIBLE

実現可能で責任ある政策の選択肢を提供する。

RESEARCH and ANALYSIS

質の高い研究や分析を提供する。

OPEN and CREATIVE

開かれた機会を提供し、創造性を育てる。

医療政策ユニット

医療政策ユニットでは、各界のリーダーや世界的シンクタンクとの連携を強めた2011年度の実績をもとに、2012年度は幅広い政策課題についてマルチステークホルダーと共に政策提言および政策の実行を促す活動を進めていく。特に、2013年度より地域医療計画が改定され、従来の四大疾病(がん、脳卒中、糖尿病、心疾患)に加えてメンタルヘルスが盛り込まれることを受け、メンタルヘルス分野および地域医療計画関連の有識者を国内外より招聘し、フォーラム開催等を通して政策に昇華させていく。

また、2011年度に引き続き米国シンクタンクCSIS(戦略国際問題研究所)との協働により、日米が共通して抱える医療政策課題に関して両国の専門家を交えた調査研究を行い、政策提言を行う。

さらに、東日本大震災復興支援に関しては、海外医療支援団体Project HOPEによる岩手県山田町支援およびCSIS等との共同政策提言に、引き続き取り組んでいく。

市民医療協議会

2011年末に節目を迎えた「がん政策情報センタープロジェクト」第1期の活動を継続すべき、2012年4月から「がん政策情報センタープロジェクト」第2期をスタートさせる。第1期は、患者アドボケート育成支援を活動の柱にし、患者アドボケートの活動が法令や施策に影響を与えることを目標に活動してきた。第2期は、患者アドボケートを中心とした、“六位一体モデル”でのがん対策への取り組みを支援していく。

2012年は国のがん計画第2期の始まりの年であり、都道府県がん計画策定作業の年という、重要な年である。国が掲げる全体目標(死亡率20%低下、患者QOLの向上、患者が安心して暮らせる社会の構築)達成のための道筋を、患者アドボケートが中心となって関係ステークホルダーと協業して作成する環境づくりを行う。

グローバル・ヘルス・ポリシー・センター

日本の世論は保健医療分野の開発援助を支持しているにもかかわらず、ODAに占める割合は低い現状がある。そのため、昨年に引き続き、国内のグローバル・ヘルス分野における主要ステークホルダーへのインタビューを通じ、グローバル・ヘルスの政策決定プロセスの検証を行い、報告書を2012年秋に発表予定である。秋以降は、日本のグローバル・ヘルス分野への貢献を高めることを目的とし、市民参加型のグローバル・ヘルスに関するアウェアネス・レイジング活動を展開予定である。

また、今年で3回目となる、大学生、大学院生を対象としたグローバル・ヘルス分野における人材養成講座を2012年夏に開催予定である。東京大学と協力し、日本から当分野で国際的に活躍する人材の輩出を目指し、継続的なサポートシステムの構築を目指す。

Background

(1) NCDに対する国際的な関心の高まり

- ・先進国のみでなく、中低所得の国・あらゆる経済階層・老若男女を問わず、NCDの罹患・死亡・リスク因子への暴露が問題となっている

(2) 日本における現状①: 高齢化、慢性疾患の増加、医療費や公的負債の増大

- ・全人口に占める老年人口割合の増加 (2010年度: 23%⇒2035年: 33.3%)
(日本の将来推計人口, 国立人口問題研究所, 2012)
- ・国民医療費の30%が支出され、昨今の歳入不足への影響が懸念される
(健康日本21 (第2次) の推進に関する参考資料, 厚生労働省, 2012)

(3) 日本における現状②: 関連ステークホルダーによるネットワークの欠如

- ・患者団体によるアドボカシー体制にばらつきがある
- ・医師会や学術団体など、職域団体の活動における横の連携が少ない

(4) 次期地域医療計画への関心の高まり

- ・2013年4月より次期地域医療計画が施行。5疾病・5事業へ
- ・地域の実情に応じた数値目標を設定し、PDCAの政策循環を実施



NCD Alliance JAPAN
~Open and Global Platform for All~

Aim

日本国内のNCDに関連したステークホルダーが集まるプラットフォームとして位置づけ、以下のNCD課題に対処するとともに、社会に応じた医療システムを構築すること

Guiding Principles

(1) 疾病横断的な慢性疾患対策の推進

マルチステークホルダーとの議論を通じて、包括的な慢性疾患対策の推進に寄与することを目指す

(2) 疾病横断での関係団体連携の促進

国内での疾病横断型のマルチステークホルダー協力体制を強めることをコンセプトとし、ネットワーク構築を行う

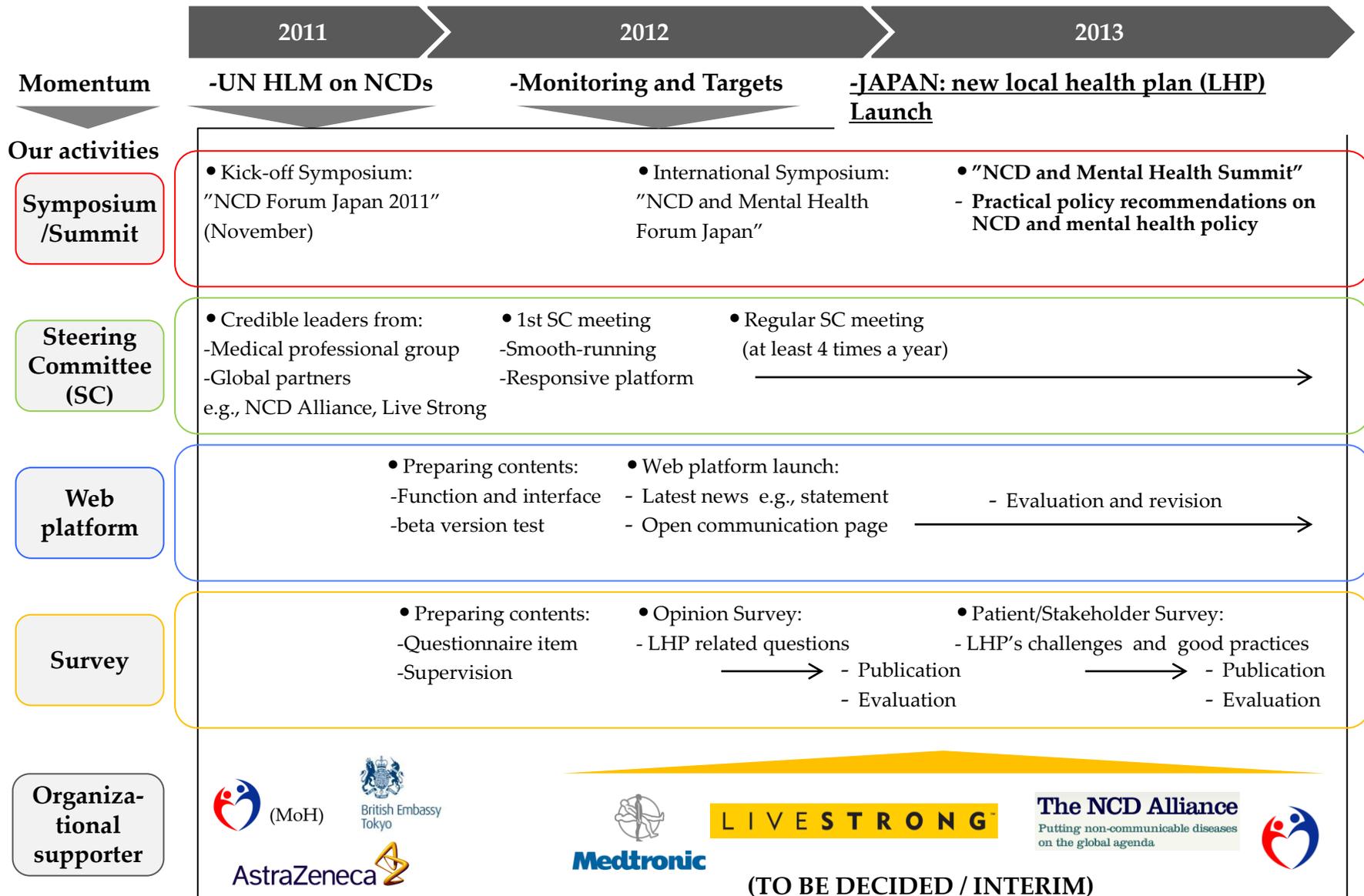
(3) 効率的な医療システムの構築

疾病横断型のプラットフォーム構築により、より革新的かつ効率的な医療システム開発の原動力を生み出すことを目指す(e.g., e-health)

(4) 国内知見の世界への発信

国内の知見を積極的に世界への発信することにより、世界のNCD課題解決へ寄与することを目指す

Project calendar



Web platform contents

- About Us

- NCDとは

- NCD Allianceとは

- ニュース

(surrounding NCD provided such as updated UN/WHO statements, and activities being conducted by the government or other related organizations)

- NCD関連分野のステークホルダーへのインタビュー

(e.g. 日本循環器学会、日本糖尿病学会・協会、日本脳卒中学会・協会)

- オープンコミュニケーション & ディスカッションページ (TBD)

The screenshot shows the website's navigation menu with 'HOME', 'WHO WE ARE', and 'NEWS'. Below the menu is a breadcrumb trail: 'HOME > INTERVIEW > 矢崎義雄 先生'. A list of interviewees is provided: 'インタビューを受けて下さった方' with links for '小川彰 先生', '鄭忠和 先生', '永井良三 先生', '矢崎義雄 先生', and '山口武典 先生'. The main content area features a large portrait of Yonekura Yoshitaka, with the name '矢崎義雄' to the right. Below the portrait is the section 'インタビュー内容' (Interview Content), which includes the text: '国内でNCDのネットワークができることは' and a question: '一貫団体の活動の軸はどのようなものなのでしょうか？' followed by a paragraph of text.

The screenshot shows a section titled 'その他のインタビュー内容' (Other Interview Content). It contains four small portrait photos of interviewees, each with a caption below: '小川彰 先生', '鄭忠和 先生', '永井良三 先生', and '山口武典 先生'.

NCDがもたらす今後の意味合いや当機構の既存プロジェクトとの連携

- Global Monitoring Framework- 9 Target and 25 Indicators (7 Nov. 2012)
- 次期地域医療計画 - PDCA Cycle
- 慢性呼吸器疾患・メンタルヘルス関連疾患対策
- Multi-sectoral Approach
- 震災復興プロジェクトとの連携 (日本国内におけるNCD 対策の推進)
- 法人朝食会／超党派議員勉強会との連携



kazumi_kubota@hgpi.org



HGPI

Health and Global Policy Institute

7F 1-11-28, Nagatacho, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0014

TEL 03-5511-8521 FAX 03-5511-8523

URL: www.hgpi.org E-mail: info@hgpi.org